CONTENTS

page.1
園長コラム ── 園長　坂本 ゆかり
page.2 - 3
保護者から見た信楽学園
野外活動 ── 田中 亮祐
神山地区納涼盆踊り
── 今澤 幹生・村田 重子
page.4
ただいま♪ ── 福井 篤史
フレッシュさん ── 坂尻 あづき
70 周年記念 T シャツ
── 天羽 結香
職員の趣味と宝もの
── 田中 亮祐・森口 華帆
編集後記 ── 安藤 宗純

信楽学園 ニューズレター Newsletter from Shigaraki Gakuen

Vol.17
AUTUMN 2023

TAKE FREE NEWSLETTER FROM SHIGARAKI GAKUEN

表紙写真：長野県車山高原山頂にて

ほほえむちから
glow
社会福祉法人グロー
滋賀県社会福祉事業団と
オープンスペースれがーとが
ひとつになりました
www.glow.or.jp
グローのホームページからニューズレターの
バックナンバーがご覧いただけます。

園長コラム　「やってみようかな」とチャレンジする気持ちを育てたい

平素は、信楽学園の運営にご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
２０２３年４月の人事異動により、当学園の園長として就任しました坂本です。
前園長である山之内は、引き続き当学園の総合管理者として、また、当法人事務局地域共生部部長として就任いたしました。

私においては、園長として未熟ではありますが、周囲の人や関係機関の皆様に助けてもらいながら、少しずつではありますが、職員一同と共に、当学園の運営を進めていく所存です。

当学園で子ども達は、中学校を卒業したばかりで保護者の元を一時的に離れ（土日曜日は帰省）、３年間寮生活をしながら、毎日、日中活動（工場での窯業や町内実習など）に参加し継続しており、日々、子ども達と過ごす中で、本当によく頑張っていると感じています。

この日々の生活が、卒園後の社会の中でどのように子どもたちの力として備わってきているのか、職員はいつもそのことを考え、活動の組み立てを行っています。
卒園生からは、「卒園して社会に出て初めて、学園の職員が言っていたことが理解できた」と電話や訪問で伝えてくれることがあり、その瞬間は職員としてとても嬉しく感じるものです。

今年度からは、様々な活動や職員とのコミュニケーション場面において、更に理解しやすいツールを工夫していくことが支援方針の一つであります。また、寮生活だからこそ「自立できる力」の基礎となる“生活力”を身につけることができるので、寮生活での過ごし方や活動についても更なる検討をすすめています。

買い物をしたり外出して映画を見たり、外食して好きなものをたくさん食べたり、電車やバスに乗ってスポーツ観戦に出かけたり・・・何よりも「楽しかったな」という体験を、できるだけ多く積み重ねる機会を作っていきたいと思っています。

一方では、毎日、日中活動を継続し、つらいことやわからないことを解決しつつ、「自分の少し先の将来」＝社会の中で生きていくことと向き合っていかなければなりません。３年間という短い期間の中で、「卒園したら、○○がしたい」「働いてお金を貯めて旅行したい」「焼き肉をいっぱい食べたい」「接客業の仕事がしてみたい」など、普段の活動や社会体験を通して自分がしてみたい活動がイメージできるように、そして大人と一緒に悩みぶつかりながら他者との信頼関係や自己理解が築いていける枠組みを作ってきたいと考えています。

子どもをとりまく社会の状況や環境は、決してやさしいものではなく厳しいものであり、この荒波の中で子どもたちが「相談する力」を備え、自分で生きていく楽しさや時には生きづらさを感じながら、自分自身の人生を少しでも豊かなものにしていくことができるように、当学園で生活する期間の中で子どもたちが自分の将来について考えていける機会を提供できればと思います。

そのためには、不安や心配なことがありつつも『やってみようかな』とチャレンジする一歩を子どもたちと一緒に考え、踏み出していくことができる支援をすすめていきます。

子どもたちが１８歳の大人として社会に出ていく前の大事な３年間（１５歳から１８歳）に私達職員は関わっていることを心に刻み、子どもたちひとりひとりが「自分の楽しい未来」に心ときめくことができるように、職員一同、頑張っていきたいと思っています。

今後とも、保護者の皆様や関係機関の皆様のご支援とご協力を賜りながら、信楽学園の役割と機能をさらに発展させ、子ども達ひとりひとりが自分らしく、皆とともに生きていくことができるように職員一同、努力していきたいと思っています。

【園長　坂本ゆかり】

外部から見た信楽学園
卒園生の保護者

卒園生 Mくんのお母さんに聞きました

入園前、なぜ信楽学園を選んだのですか？

中学３年の進路で、信楽学園と養護学校、他の福祉施設にも見学に行き、信楽学園では宿泊の体験をさせてもらいました。自分の進路のことなので、本人に選んでもらおうと感じていました。ただ、信楽学園は高校卒業資格がもらえないので、社会に出た時に賃金の関係で少し気にしていましたが、卒園後も５年間はアフターフォローをしてもらえる点で親としては学園推しでした。

いくつかの見学や体験を通じて、社会に出て本人の得意な部分や良さを活かせるところで、力を伸ばせるようにしようと考え、本人と話し合って信楽学園を選びました。

学園の取り組みとして、良かったこと・悪かったこと・疑問点などを教えてください

納涼祭とか近隣の方と祭りなどをやっていたんだと後で知りました。子どもたちが楽しめる行事をしてくれているのであればよかったと思っています。ただ、コロナでどこにも行けなかったのでＢＢＱをしてくれたのがよかったと感じています。中学の時は、あまり運動などをしてこなかったので、体力づくりとして野外活動の登山はよい行事だと感じていました。

あと演劇活動の終わりには、後輩の児童とも仲良くやっている様子が見られ、年齢関係なく過ごせているのがよかったとその時に感じました。

ただ、３年間の中でどれだけ楽しめていたのかはわからなかったので、本人が楽しめていたのであればよかったと今では感じています。

職員に対してどのような印象を持っていますか？

迎えに行ったときにその都度、職員さんと話をして学園のことなども聞いていたので安心していました。町内実習のことも詳しく聞いていたので、心配などはなかったです。良いところ、悪いところも聞いていたのでよかったです。アドバイスもしてくれていたので不安に思うこともなかったです。本人が言える環境や、何らかの本人からのサインで聞き出してくれていたと感じるので、「なにも心配することないわー」と感じていました。

心配ごとはありましたか？

中学校の時に、進路について信楽学園に決めてからは、やっていけるか心配ではありました。寮生活もやっていけるのか、家にいても食べたいものしか食べないし、心配でした。嫌いなものでも提供されるし、ちょっとでも食べられるようになればいいかとの思いはありました。

入園してから土日曜日の帰省と決めた週は、日曜日の昼には電車で学園に戻らなければいけないので、ゆっくりできないため車で夕方に送ることにしていました。その道中で学園ではどんなふうに頑張っているか、他の子どもたちとの関わりはどうなのかなど聞いていました。↗家に帰省した時くらいは自由に過ごしてもらえるようにと感じて接していました。

一度だけ家で友人の愚痴をこぼしていたことがあり、そのことで悩むことも社会経験だし、職員さんに話するなり、居室を変えてもらうなどの相談をしていく事で力になるだろうと期待しながら見守っていたところもありますね。

Ｍくんの現在のお仕事（清掃業）についてはどのように感じますか？

掃除が苦手なのは理解していました。アドバイスとして、「家の部屋は何しようが自己責任だけど、仕事は業務。お金をもらう以上は苦手でもやらなければならない」と本人に伝えました。数日間会社実習を行い、自信を持ち納得し続けることができるといい、雇用に繋がりました。最初の３カ月間は疲れたとか、どこどこが痛いと訴えがあったけど、最近では言わなくなってきたので慣れてきたのだと感じています。就職先では本人がどこまで作業が出来るのかを見抜いて、作業指示をしてくれるし、しっかり見てくれているので安心しています。

最近、学園在園の時の先輩が後輩として入社したので、社会のルールにのっとって作業指示をしていく事や、偉そうにしないことなどはアドバイスしました。上司の方とはお会いしたことはないですが、アドバイスを含めいろいろと上司の話は聞いています。

保護者としての悩み、相談事の解決は学園でできましたか？

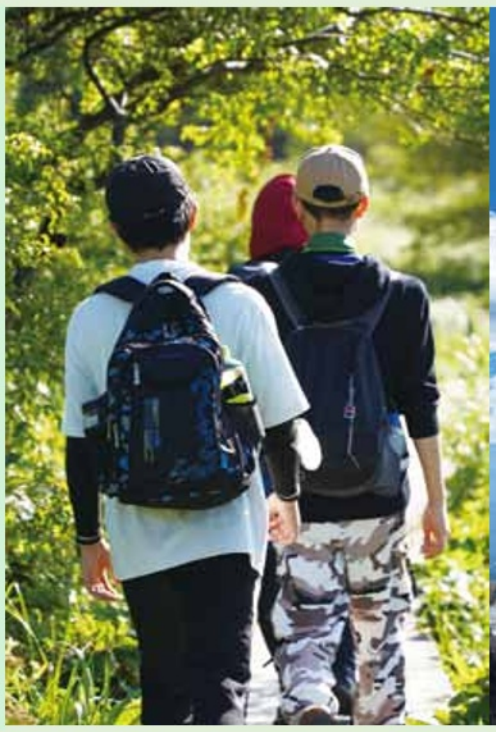
特に心配するようなことはあまりなかったかな？本人からも聞いていたこともあるし、何かあれば学園からも連絡がくるだろうと感じていました。相談したことといえば、栄養面的な部分での相談をしたことがあるな？野菜は食べなかったので。

信楽学園にしてほしかったこと・求めていたことを教えてください

息子が言うように、してほしいこともあったと感じています。行事は色々あったし、職員さんと子どもたちとが一緒に楽しめる機会が多くあったのでよかったと感じていますね。生産競技会や演劇などもあったし、登山のための基礎体力作りなどもあったし色々やっていると思います。

職員さんに対しての要望はあまりなかったです。電車帰省では連絡帳でしかやりとりができなかったんですが、コロナ禍では学園の送迎などで顔を合わせて話が出来ていたので、逆に顔が見える関係が出来てよかったと感じています。保護者さんと会ってお話ができる機会を作れる方がよいなと感じますね。子どもを通して状況を伝えるのではなく、ちゃんと直接状況や出来事を言える機会なども増やす方が、伝わり方も違うと感じますし、しっかりとしたお返事がもらえると安心できると思います。

野外活動　長野県の車山高原を登頂してきました。



今年度も２年目１年目の児童で長野県の車山高原を登頂してきました。

６月下旬頃から、学園周りを登山靴で歩く歩行訓練や体育館でのストレッチをして身体を慣らしていきました。７月に入ると、今年度は信楽近郊の山ではなく、選定した希望が丘文化公園（野洲）、桐生（大津）、飯道山（水口）で体力作りに励みました。

当日も天候に恵まれて予定通り８月３日に学園を出発することができました。初日はキャンプ場に到着してすぐ近くの入浴施設を利用してからBBQをしました。たくさん食べて、皆でワイワイとリラックスして２日目の本番に備えます。

各パーティそれぞれの場所から出発し山頂を目指します。

練習では離脱する児童もいましたが、当日参加者全員が登頂することが出来ました。山頂では、まだ余力がある様で元気にはしゃぐ姿に感心しました。何より体調不良者や怪我無く終わる事が出来て良かったと思います。

今年度は練習から雨天と重なることもなく全て実施することが出来ました。一方、年々気温は上昇するばかりで、物価の高騰から費用も高くなってきています。他にも、全体のモチベーションなどこういった理由から、今後の野外活動をどうしていくのか、目的をどうしていくのかが検討が必要になってきています。

今後も私たち学園職員は、全体を把握しながら柔軟に対応していきたいと思います。　【田中 亮祐】

の方に聞きました

卒園生Ｓさんの お母さんに聞きました

なぜ信楽学園を選んだのですか？

中学校時の進路について悩んでいた中で、親ではない誰かに関わってもらうのもいいのかなと考えました。また少し親との距離があった方がよかったので、なんとか頑張ってほしいと思っていました。頼れる大人を作る力は長けていたため、職員さんに馴染めないという心配はなかったです。最終の入園決定は本人の選択です。

学園の取り組みとして良かったこと・悪かったこと・疑問点など

家族の中で守られた環境で育ってきたため、寮生活から人間関係など心配になることもありました。寮の友達と喧嘩をした時もあり、病んでしまうのではないかと気が気じゃなかったです。そういう経験も大切かなって思ったし、同年代の子と関わることも必要かと思いました。週末帰省出来るため、安心感もあったかと思います。寮生活の中で、生活リズムを整えるなどの最低限の身のまわりのことができてくれるといいなという思いを持っていました。

登山の行事は本人にとっては分かりやすかったのだと思います。就労後、一度駅から自宅まで１時間以上かけて歩いて帰ってきたことがありました。「学園で登山活動したことを思ったら歩けた」という発言をしていたことがあり、山に登頂できたという経験は自信になっており、良い経験になっていたと思います。

日中作業の窯業活動だけではなく、本人ができることを考え提示してくれて行ってくれたことは良かったです。本人のペースを大切にして、無理やりやらせるというのもなかったのが良かったです。普段の関わりの中で、メリハリをつけて良いこと・悪いことを言ってくれたことは良かったです。

職員に対してどのような印象を持っていますか？

本人のペースを大事にしてくれたことが良かったです。職員が「焦らなくていいんだよ」と言ってくれ、本人も親も楽になりました。

職員さんから“できないこと”の報告だけがあると、「この子は、できない子なんかな」と思ってしまいます。親としてどうしてあげたらいいんだろう、本人の良いところはないのかなと悩むこともあり、他の子と一緒のことはできないけど、他に良いところがあっただろうと思うから、職員さんには小さなことでもいいので、もっと“プラスの報告”をしてほしかったと思います。

心配ごとはありましたか？

小さい頃から朝に起床できないというのが悩みとしてあり、学校生活を送ってもらうというのが大変でした。信楽学園に入園してから、２～3か月間は朝起きるということができているのを聞いて、「やろうと思ったらできる力がある」というのが分かりました。それをどう継続することができるのだろうかというのが課題であると思っていました。

Ｓさんの現在のお仕事についてはどのように感じていますか？

卒園後は、コロナ禍も影響し、予定していた就労ができず、何もしない１年間を過ごしていました。本人が行きたいという場所や経験してみたいと思うことを一緒に取り組んだりしつつ、「3年間学園でよく頑張っていたので、１年間はゆっくりしてもいいんじゃないかな」と思っていました。学園の３年間があったから、焦らずに本人のペースでもいいんだという考えを親が持つことができるようになったと思います。

現在、接客業の仕事を週3回働いています。仕事をし始めてから、最初の1.2 回は行きたくないと言っていたが、自分で起床して出勤することができるようになっています。レジ操作なども数字が嫌だと避けていたが、自分から「教えてください」とお願いすることもできました。仕事先で行われている保護犬の譲渡会をボランティア活動として参加もしています。

仕事のお給料は、アイドルと犬のことに使って、最近では犬用の見守りカメラ（高額な物）の購入をしていました。また１人でアイドルのコンサートへ行くのに、仙台まで公共交通機関を乗り継いで行くこともありました。新幹線の乗り換えをしたことがないですが、人に聞いたり、相談したりしながら行って帰ってくることができています。親としては随分心配をしましたが、本人が興味があることから、生きるエネルギーや働くモチベーションになっていると強く感じています。

保護者としての悩み、相談事の解決は学園でできたのか

本人とどう関わったら良いのか分からない時などのアドバイスをもらっていたため、本人の気持ちを受け止めてあげることができており、親としての気持ちのコントロールもできていたように思います。分からないことがあればすぐに、学園に電話して聞くようにしていました。

また職員と親とでやり取りをしているなかで、「学園がすること」「保護者がすること」を言ってくれたのは良かったです。

信楽学園にしてほしかったこと・求めていたことを教えてください

大人だけでのケース会議は、事務的だなと感じました。親身になって、本人のことを思って考えてくれていないと思っていました。本人は、こうだからこうという型にはめさせようとして、既存の福祉サービスの利用が先行してしまう傾向にあり、本人のできる・できないを決めつけすぎだと思いました。ある枠組みの中でなんとかするというより、その子の個性が活かすことができるきっかけがたくさんあればいいのにと思います。だからこそ、何がきっかけで頑張ろうと思うかが分からないから、本人の世界や視野を広げてあげることを学園にいる間にしてほしいです。

やったことが先に繋がることではなくても、学園内での窯業や実習だけでなく、本人ができることの選択肢の枠を広げてほしいと思います。例えば、陶芸をする作業だけではなく、漫画が好きなら絵を描くなどとしてもいいのかもしれないです。外に出て働くことだけが全てではないと思うので、興味があることから生きるエネルギーになるように、今後もいろいろと体験をできる活動を展開して欲しいと願っています。

神山地区納涼盆踊り

コロナ感染が拡大し、自粛を始め３年…。
今年度久しぶりの開催となる、神山地区納涼盆踊り。神山地区の会議に
出席させて頂きましたが、コロナ感染が落ち着き、久しぶりの大きな行事という
事もあり、気合が入っているのを肌身に感じ、学園の納涼祭担当として
失敗は出来ないと改めて気合いを入れなおしました。

納涼盆踊りの開催をどこで知ったのか、学園卒園生からの問い合わせがひっきりなしにあります。
納涼盆踊りを楽しみたい。学園の職員に会いたい。卒園後の経過を報告したい。など、
目的はそれぞれですが、神山地区の納涼盆踊りを楽しみにしてくれていました。

当日は、朝からテントや焼きそばで使う鉄板などを車に積み込み、午後の1番暑い時間帯に、
テントや櫓の組み立てを行いました。不慣れで不器用ながらも地域の方々に混じって男子園生もお手伝い。
女子園生はたくさんの野菜を切って、夜店の下準備。普段と違う動きに戸惑いもありながら、
髪の毛をセットし、浴衣に着替え準備万端。
19 時には会場へ到着。園生に職員、卒園生、地域の方も含めて約５００名の参加があったと伺いました。
夜店では焼きそばにジュース、ヨーヨーと大繁盛。他の店にもたくさんの人だかりがありました。
神山地区納涼祭の最大イベントといえば … ビンゴ大会。リーチ！！ビンゴ―！！と高々に叫ぶ声が響いており、
納涼祭での光景が復活したことが嬉しく思いました。
そしてなんといっても神山地区納涼盆踊りを締めくくるのは、打ち上げ花火！！
綺麗な星空を更に美しくしてくれました。やっぱ花火はいいですねぇ～
来年もたくさんの方々と交流し、楽しい時間を共有できればと思います。　【今澤 幹生】

地域住民でもある職員より

信楽学園の３大行事である納涼祭は、神山区民にとっても、夜店、盆踊り、花火大会と
暑い夏の楽しみの一つです。信楽学園の児童や、保護者の方と地域の人が交流出来る
唯一の場所でもあります。園生さんは、卒園してからも職員や、仲間の顔が見たい、
近況報告がしたいと毎年楽しみにしている人が多くいます。
今も、昔も信楽学園生は人恋しいんだと強く感じます。
今回参加出来なかった人の為にも、来年も納涼盆踊り大会が
行われることを願っています。

【村田 重子】

ただいま♪

この度草津市にある施設から異動で赴任しました、福井篤史（ふくい あつし）と申します。14 年ぶりに信楽学園へ戻ってくることになりました。

ワクワクとドキドキが交錯して気持ちが高鳴っています。私と信楽学園の出会いは 21 年前に大学を卒業し、初めて社会人として仕事をしたのが始まりです。

当時を思い返してみると、児童が 50 名以上在籍していてとてもにぎやかでした。当時若かったこともあり、勤務時間そっちのけで朝から晩まで学園の中で過ごし、事務仕事より工場や寮で子どもたちと沢山の時間を過ごしました。余暇時間はサッカーをして過ごし、全国大会へ遠征もしました。

また、現在も続いている夏山登山では笹が岳に何度も登り、練習に汗を流し頑張った事をよく覚えています。その成果として子どもたちと北アルプスの奥穂高岳へ登ったことは、良い思い出になっていると同時に私自身の自信にもつながっています。

冬は演劇発表会があり、寮の中で練習したことや舞台のセット、衣装を夜遅くまで作ったことが思い出です。とにかく朝起きるところから寝るところまで、寝食を共にしてたくさんの時間を一緒に過ごしました。この経験は信楽学園でしかできない本当に特別な経験だったと思います。

その後は違う施設で長年勤務してきましたが、当時の児童の名前と顔は今でもよく覚えています。卒園生と街中や出張先でばったり出会うこともあり、近況を話すこともあります。卒園後、立派に社会人として仕事をして余暇を楽しみ、自立した生活を送っていることを知ることができると、私もうれしく、誇りに感じます。

あれから 14 年が過ぎ、信楽学園の環境や支援の方法等変わったところも沢山あります。まだ慣れない所もありますが、力になれるように早く仕事を覚えたいと思います。

今も昔も自立を目指す施設というコンセプト変わらないと思います。それぞれの児童が目標を達成できるように一緒にがんばっていきたいと思います。よろしくお願いします。

【福井 篤史】

フレッシュさん

はじめまして。 児童支援員の

坂尻（さかじり）あづき です。

大学では臨床心理学を学び、
精神保健福祉士の資格を取りました。
この資格を活かせる仕事を探したときに、
信楽学園を見つけました。
信楽学園に見学に来た際、学園のゆったりした雰囲気や工場でのキリっとした皆さんの姿に魅力を感じ、働くことを決めました。

まだまだ分からないことだらけで頼りない私ですが、皆さんのなりたい自分や希望を叶えるお手伝いが出来たらと思います。 よろしくお願いします!

70 周年記念 Tシャツ

昨年度、信楽学園 70 周年を迎えました。節目の年に、記念誌や記念品を作り続けてきましたが、70 周年では「全員で揃えられて、何か形に残るものを作りたい」という思いから、“T シャツ” を作ろうとなりました。

表面はニューズレターに使用しているタヌキのイラストと信楽学園の名前を。裏面は信楽学園の歴史を英語で記載をしました。職員・園生全員が同じ T シャツを着ることで、一致団結出来ている気持ちになります。今後の行事の時には全員で着用して、士気を高めるアイテムとして活躍しそうです！ 【天羽 結香】

職員の趣味と宝もの

田中さんの「釣り」

私の趣味は釣りです。
釣りの魅力は、季節に応じて、釣り場や狙う魚を変えたりして楽しむことが出来ます。 単に魚を釣ることが目的ではなくて、どんな仕掛けで釣るのか、魚との駆け引きを楽しむことが出来ます。他にも、自身で釣った魚を食べたり、道具をコレクションにしたり多岐多様な面白さがあります。

滋賀や京都では、整備された管理釣り場（トラウト）も多く、近隣の福井県や三重県での海釣りを楽しめます。 【田中 亮祐】

森口さんの「手紙」

私の宝ものは手紙です。
（もらった手紙をそのまま載せるのは恥ずかしいので写真はレターボックスに入った状態で）

宝ものは何かと聞かれてもこれと言ってないので強いて言えば手紙という感じなのですが、手紙は文章から感謝の気持ちが伝わってくるので、もらうのは好きです。

たまに整理のために読み返すこともあるのですが、その時に感じた思いがよみがえってきます。 【森口 華帆】

編集後記

ここ数年で何名かの卒園生を見送ってきました。
最近どうしてるのかなーと考えると、たいてい連絡がきたりするので不思議ですよね。
「お疲れ様です！ちょっと相談なんですけど？」と、在園中の時のように気さくに声を掛けてくれるんです。
「車今度譲ってもらうんですけど、手続きどうしたらいいんですか？」
「知らんがな！車屋に聞きなさい！！！」とは言いつつも、お節介焼きの性分で、
個人的に手伝うことにしたんですが、全くその筋に関しては無知ですし、なんやかんや
3 ヶ月くらいは、あーでもない、こーでもないと二人して錯綜しました。
結果、色んな方の協力を得て無事に車を迎えられました。学びが多い日々でしたが、
願わくば今後のご相談は車屋にでお願いいただければと思います。 【安藤 宗純】

信楽学園 ニューズレター Vol.17
滋賀県立 信楽学園
〒529-1812 滋賀県甲賀市信楽町神山４７０
☎0748-82-0051 / email : shigarakigakuen@glow.or.jp
編集・発行
社会福祉法人 グロー
glow ～生きることが光になる～ www.glow.or.jp
こちらからバックナンバーも読めます ▶